

伊東市民病院で ございます。

Vol.11
2018.8

インタビューコーナー

～医療技術部長 梶原幸信～

健康コラム

食中毒予防は つけない ふやさない やっつける!!

特定ケア看護師をご紹介します



Q1. 伊東市民病院を選んだ理由は何ですか？

以前から、この地域におけるリハビリテーションに対し、もっと自分の生活圏域に近いところで関わりたいという想いを持っていました。伊東市民病院新築と合わせて回復期リハビリテーション病棟を開始すること、そしてリハビリテーション部門の強化を目指すことを荒堀管理者や職員の皆様から教えていただき、大好きな伊東市において、より市民の皆様との生活圏に近いところでリハビリテーションに関わらせていただくチャンスだと思いい、思い切って転職させていただきました。

Q2. 作業療法士を目指したきっかけは？

私は生まれつき右腕の運動と感覚に少し障害があり、周りの人と同じように出来ない悔しさや恥ずかしさを子供の頃から沢山経験しました。物心つく前からの障害のため、出来ないことに固執するのではなく、「右手でできないことは左手で行う」「道具を工夫する」などといったように、出来る方法をみつける生活が当たり前となっていました。

高校時代、目的もなく大学に行く気持ちになれずいた時、作業療法士という仕事を知りました。作業療法は、リハビリテーションの中でも「治す」だけではなく「出来ない動作に対して方法や道具の工夫により出来るようにする」ことにも重点をおきます。自分自身の人生経験が生かせる仕事だと感じました。そして、リハビリテーションの養成校に入学し、作業療法士の国家資格を取得することができました。

伊東で生活し続けることが できていることに感謝

Q3. 伊東市民病院の今後について考えをお聞かせください。

伊東市民病院はこの地域における基幹病院として、他の医療機関や、介護・福祉等の事業所との連携の上で、地域の実情に合わせた医療対応力を常に確保しておくこと、「病気になる時、怪我をしてしまった時には伊東市民病院があるから安心」と地域の皆さんに思っていたただける病院作りを目指し続けることが重要な役割の一つであると考えます。その中でリハビリテーション部門は、当病院の最も重要な役割である急性期医療における機能回復、動作獲得への関わりは勿論、一人ひとりのご自宅や地域での生活動作や役割の獲得、再獲得に向けて一緒に取り組ませていただく体制確保を常に考えていきます。

Q4. 普段実践している健康法を教えてください。

今は、何か特別な健康法を実践する時間が本当に作れていません。強いて挙げるなら、自分自身の役割に全力で取り組むこと。その中で関わる人、物事に感謝し、幸福を感じ笑顔でいることです。

ただ、このままではそろそろまずいな、とは思っていましたので、これを機に少し生活を見直そうと思います。このインタビューは自分自身を振り返る良い機会になりました。これもまた感謝です。

Q5. 地域の皆さんにメッセージをお願いします。

私の生まれは神奈川県です。親の仕事の関係で小学生時代を過ごした伊東の自然と温かさが大好きになり、最初の就職時から伊東に在住しています。自分自身も「子育てをすべし」と、家族と生活することを優先して今があります。伊東に出会えたこと、伊東で生活し続けることができていることに感謝し、これをエネルギーにこれからも頑張ります。今後もよろしくお願ひいたします。

蒸し暑い毎日、食べ物が傷みやすいと感じることはありませんか？傷んでいなければ問題ないと思いがちですが、それは危険です！食中毒は食品の腐敗ではなく、原因菌が増殖しそれを人が摂取することにより様々な症状を引き起こします。



実は、食品の臭いや見かけで判断することは難しいのです。「この食中毒を防ぐためには、原因となる菌を「つけない・ふやさない・やっつける」という3原則が基本です。

日ごろから生活リズムを整えて体調管理を行い、免疫力を落とさないように心がけておくことも予防策として効果的です。安全な食品をおいしく食べて、暑い夏を乗り切りましょう！



食中毒予防の3原則

★ つけない

手指や調理器具・食品の清潔を守る。
加熱前の食品用に調理器具を区別する。

★ ふやさない

細菌の増殖しやすい常温に食品を放置せず温度管理する。

★ やっつける

細菌やウイルスが死滅する75℃まで中心部をしっかりと加熱する。

食中毒予防は

つけない

ふやさない

やっつける!!



特定ケア看護師をご紹介します

はじめまして。特定ケア看護師になって1年半を迎えました。特定ケア看護師とは、団塊世代が65歳以上となる2025年に向け、今後の医療を支えるために特定行為に係ることが出来る看護師の事です。伊東市はすでに65歳以上の高齢者率が40%を超え、全国平均と比べて高く、独居や老々介護で、現在でも在宅復帰に難渋する患者さんが多くいます。私は、介護や医療行為が必要であっても「家に帰りたい」という患者さんやご家族の思いに寄り添い、在宅療養を支援できる特定ケア看護師を目指しています。

特定ケア看護師になるにあたり多くの研修をしましたが、まだまだ知識が足りません。ですので、診療の場で、診察の仕方や、診断、治療について経験を積み重ね身につけながら、特定行為の実施によって、病院へ行くことなく在宅で患者さんの苦痛を取り除き、より安楽な生活を継続できるようにしていきたいと思っております。まずは、多職種とコミュニケーションを多くとって治療や看護方針を共有し、地域へ繋げ、在宅医療の提供をしていきたいです。地域住民の方が安心して住み慣れた場所で過ごせるお手伝いができるよう努力していきたいと考えております。



特定ケア看護師 大岩 真弓

皆様はじめまして。特定行為に係る看護師の研修制度を修了し、特定ケア看護師一期生として、日々研鑽を重ねています。特定ケア看護師とは、病院、診療所、訪問看護ステーション、介護施設など活躍の場はそれぞれ違いますが、対象者に迅速な対応をしたりチーム医療の中で多職種を繋ぐ役割を果たしたりする事が我々の果たすべき役割と考えています。

現在、私は整形外科のチームに属し、診療の補助をさせて頂いていただいています。外来診療や手術で医師が不在の間、入院患者の全身状態管理を行い、患者さんの状態に問題が発生した場合、可能な限り迅速な対応をして診断や治療に必要な検査オーダーなどを行います。また、病棟看護師の相談を受けることも行っております。

整形外科のチームでは、放射線室、リハビリテーション室、薬剤室、栄養室、事務、といった多くの部門と関わっていると感じています。コメディカル部門や事務部門などとも直接会話することで情報共有を行い、チーム一丸となって患者さんに関われるよう活動させていただいています。ゆくゆくは病院内に限らず伊東市内の様々な職種の方々とも繋がり住みやすい地域作りに貢献出来たら良いな、と考えております。



特定ケア看護師 小川 法之

看護公開講座スケジュール

開催日	担当	演題
8月8日（水）	認知症ケア	医療介護相談
9月11日（火）	NSTチーム	栄養補助食品の紹介と試食
10月17日（水）	緩和ケアチーム	「緩和ケアについて」～基礎知識編～

